



「^サポ^ポー^ート」で「5つ」のことがわかります

鹿屋特別支援学校 西育子

I 基本情報

～ いざ、クリア! サポート「用語」と 「位置」(?)情報 ～

(1) 「ISS」 知能偏差値 ^{Mean} M 50

統計用語のおさらい!
「平均」は英語でMean. 「M」と略す

(2) 「DIQ」 ISSを再計算

「DIQ」 ISSの倍じゃない

(3) 「BSS」 学習特化の ISS

(4) 「A式」は 言語の知能 聴覚系

(5) 「B式」は 非言語知能 視覚系

| | |
|-------------------|-------------------|
| ・教研式 M50 (SD10) | ・WISC M100 (SD15) |
| ISS50=M=IQ100 | |
| ISS40=(-SD)=IQ85 | |
| ISS30=(-2SD)=IQ70 | |
| ISS20=(-3SD)=IQ55 | |

SDごとに10動く

SDごとに15動く

M-2SD=IQ70=ISS30
M-2SD以下→ 要支援
IQ70以下→ 要支援
ISS30以下→ 要支援

2 分析(個別支援【様式1】)

(1) 知能 「ISS 30以下なら 要支援」

(2) タイプ 「Aタイプ? それともBか? ^{しかく}□かな?」

(3) 知的機能 「知的機能 ^{てこぼこ}凸凹あったら 要精査」

(4) 知的作業 「知的作業 L5型には 要配慮」

「L5型 作動記憶に 課題あり」

「なぜ遅い? 記憶に課題か? 不器用か」

「不正確・・・ 理解に難か? ケアレスか」

(5) 知学相関 「能力の 発揮度示す O・U・B」

「Oタイプ 過剰適応 してるかも」

「Uタイプ 怠慢だけでは ないような・・・」

3 分析(集団支援【様式2】)

- (1) I 学習ペース 「下ろさぬぞ。学力船から 誰一人」
(2) II 知能のタイプ 「このクラス A型? B型? どっちかな?」

「ABは ^{やじるし} ←→足して 再集計」

「やったるで〜 Bが多けりゃ 視覚支援」

- (3) III 知学相関 ※前項参照

集団支援の例

- ① 「話す前 傾聴態度の 確認を」
- ② 説明も 指示も「一文 一動詞」(短語・短文・短話型)
- ③ 「わかった?」の 代わりに「復唱」促して
- ④ 散りばめよう 学習動作の まめ指示を
- ⑤ その注意 授業を止めて いませんか?
- ⑥ 僕, 多動・・・ 動いてもいい 課題くれ
- ⑦ “効率型” 退屈回避 「二段指示」
- ⑧ 学習指導要領に 支援のアイデア ざっくざく

【教科編】4章 「指導計画作成上の配慮事項」

- 障害のある児童への配慮についての事項
「通常の学級・・・」「全ての教科等・・・」

- (4) IV 知的作業 ⑨ ビジョン・トレ 集中ゲーム 記憶トレ (トレ=トレーニング)

4 その他

- (1) 実施方法 「正確に マニュアル通りに 実施せよ」(正確なデータが欲しい)
(2) 検査相関 「な, な, なんて? WISCとこんなに 違うのは」